

公共事業再評価調書（県土整備部）

課室名	港湾課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	港湾課長 戸口田 克維 (坪内 稚和)	内線	4440 (4450)
-----	-----	---------------------	------------------------	----	----------------

事業種目	港湾事業	事業名	事業区間	総事業費	約48億円
		改修(離島・地方)事業 家島港家島地区	家島港家島地区		

所在地		事業採択年度	現地着工年度	完成予定年度	進捗率
飾磨郡家島町家島		H7	H8	H17	46%

事業目的		事業内容			
<p>当港には石材運搬船の係留施設等が不足しているため、港内外での無秩序な停泊により、定期旅客船や漁船との錯綜が問題となっている。</p> <p>この為、定期旅客船の航路の確保と、港内の安全な停泊地を確保することを目的とし石材運搬船の係留施設、防波堤等の整備を行う。</p>		採択時点(H7)	岸壁(-5.5m)L=300m	事業費約53億円	泊地(-5.5m)A=5000m ²
		現時点(H12)	係留施設(-5.5m)L=300m	事業費約48億円	泊地(-5.5m)A=5000m ²
			防波堤(東) L=350m		防波堤(東) L=300m

進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 岸壁(-5.5m)は平成7～8年度に調査を行ったが、背後の土地利用について地元調整を行っていた為、本工事には着工していない。 防波堤(東)は、平成8年度に本工事に着手している。(進捗率約65%)
------	--

評価視点	
(1)必要性 現状	<ul style="list-style-type: none"> 常時約100隻の石材運搬船が家島港を基地港として利用している。 係留施設等の不足により、現在港内に約60隻、港外には約40隻が旅客船航路付近に無秩序に錨泊している。 当初は、用地造成を伴う岸壁の整備を行うことにより係留場所を確保することとしていた。 その後、造成用地の有効利用が見込めなくなったことから、係留機能のみを有する構造に変更し整備を行うこととする。 旅客船便数は大幅に増えており、さらに安全な航路確保が求められている。 在籍漁船(約240隻)も、安全に入出港できる。 航路の確保により旅客船の定時制が向上し、島民生活の快適性向上に資する。
安全・安心	
快適性・ゆとり	

(2)有効性・効率性	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 当港を基地港として利用する石材運搬船約100隻を港内に整然と収容できる。 定期旅客船の安全性、定時性を確保する事が可能となる。
代替性	<ul style="list-style-type: none"> 家島港内には他に石材運搬船を係留できる場所がない。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 地元より港内整理の為の係留施設整備に強い要望がある。

(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> 防波堤本体は透過構造とし、基礎は捨石を用い魚類の生育環境等に配慮している。 係留施設は埋立を行わないことにより、生態環境への影響は小さい。
----------	--

(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> 港内に石材運搬船の係留施設等を確保し、離島の定期航路の安全性、定時性を確保する為に必要な事業であるため、早急に整備を進める必要がある。
--------	---

県土整備部の考え方

評価結果	継続	左の理由	<ul style="list-style-type: none"> 上記の理由により継続が妥当である。
------	----	------	---